

サンタンブロージョ教会

三年前、イタリアに赴任したが、当初の一ヶ月はイタリア中部の観光・大学都市ペルージャで過ごした。この街はイタリアの古い歴史的な街の常として城壁に囲まれ十三、四世紀の教会・政庁跡といった古い中世の町並みがすっぽり残っている。石積みの家、手を延ばせば届きそうな狭い石畳の路地、看板などを少し外せばすぐ映画のロケに使えるような街だ。しかし明るく現代的な神戸の街からきた人にとって、いかにも古臭く重苦しく、ま

Foreign Affairs'90

特集●海外から神戸へ

# 「エレガント」に住みたい

神戸市ミラノ駐在員

杉山 篤良



ミラノ

るで奈良の石舞台にも住んでいるような気がした。中世の町並みと書いたが、歴史は非常に古く二千年前の古代ローマ帝国時代、そのまえの二千六百年前のエトルスク文明時代の建物・遺跡も残っている。しかも現在もこれらの建物の内部は改造し、ちゃんと人が住み働いている。イタリアは歴史の国ゆえ至るところこんな街がある。日本だと住民は郊外に住み歴史的地区として観光用に遣すか、さもなくば再開発してしまうだろう。

ミラノに赴任した当初、知人のイタリア人にミラノの街でどこが美しいか尋ねたところサンタンブロージョ教会といふ答えが返ってきてオヤオヤと思ったこともある。サンタンブロージョ教会は十一世紀頃のロマネスク様式の煉瓦積みの建物で歴史的文化的に非常に重要なものであるが、私にとっては古臭い單なる文化財で美醜の対象外のものだった。私にとって街の美とはポーライのファッショントンタウンのような清潔で近代的な機能美に満たされた場所が具現するものだった。

しかし三年間ミラノで生活してみて、こちらの人は古いアンティークなものに美意識を見いだしているのが理解できた。私—多分一般の日本人が思っているようない近

物に住んでるという本人の満足以外にも、もある人がこの様な家に住んでるとしたら、ずっと以前からとすることであれば、その人は由緒ある家柄の人ということであり、とりあえず新しく住み始めたとしても少なくとも金持ちということを意味するので、社会的なステータスをも示す。

ドイツには中部のヴュルツブルグに始まりローテンベルクを通り、南ドイツアルプスの麓の白亜のノイシュバンシユタイン城に至る有名な「ロマンチック街道」がある。この街道をドライブしてみると中・南部ドイツの自然は美しく、街道沿いに次から次とよく手入れされたおとぎの国のような街が現れ、どちらを向いても絵葉書的世界で決して「ロマンチック」の名に恥じないと思う。

しかし、少し考えてみると、なるほど自然も町並みも美しいが、この観光ルートはドイツの中世の町並・面影がよく残っている街々をつないだもので、ドイツ人がこのルートで「ロマンチック」と表現しているのは、華やかな騎士道に溢れた中世に対するノスタルジア・憧れであつて日本人の考へているものとは違うのが分かる。また Frankfurtでは第二次世界大戦で全壊した市の中心部をきつちり戦前のとおり再建し、中世の街並みを復興しているようにドイツの諸都市はたとえ戦禍に遇つても中世の古い街並みを復興・再現している。これらもこちらの人の美意識・価値観を反映している。アンティークなものは美しく大事にしたいからこそ遺されているものは当然保存・活用するし、たとえ破壊されても再現・復興する。

一見、基本的に普遍的に共有していると思われるがちな美意識、その美意識に裏打ちされた価値観といったものも自然・地理的環境、歴史、文化、伝統、国民性といった要素により必ずしも同じではない。ボーダーレスの時代になり、日本とヨーロッパのより一層の相互理解のためには、今後はこのようなよりきめ細かい差異の理解も必要となってくる。



イタリア人がエレガントと思い、住みたがる建物



中世の建物を生かしている銀行

特集●海外から神戸へ

ロンドン

Foreign Affairs'90

# ニューヨーク、ジャカルタ、 ロンドンそして神戸

神栄石野証券株ヨーロッパリミテッド副社長

平尾 千秋



ロンドンの目抜き通り、リージェントストリートの夜を飾る恒例のクリスマスイルミネーションにも明りが点つて、当地二度目の年の瀬を迎えるとしている。不況のせいか今年の飾りはやや小振りと聞く。

思い返すと神戸にいたのはニューヨーク赴任の四十六年春迄の事だから離れて久しい。最近は出張で年に一、二度帰る程度だから神戸っ子としては申し訳ない不幸振りである。

国際分野の仕事に首を突込むようになつた憧れのニューヨークで海外勤務の第一歩を踏み出した。国際金融の中心地ウォール街に立つて熱い興奮に胸をふくらませたものである。

二度目の海外はがらりと変つて熱帯の国インドネシアであった。ジャカルタ最大のタムリン通りは建設ラッシュで次々と近代的オフィスビルが立ち並ぶ反面、街には職の無い浮浪者や貧民があふれ、その治安の悪さに緊張の絶えない生活をしたものだった。今思い出してもゾッとするが単身生活をしていた頃、あふれる位に姐のわいしたサラダを食べさせられるといった悪夢の様な出来事もあった。食事をしながら新聞を読んでいて気が付いた時

には既に半分近くが腹の中に収まっていたのである。吐出す事も出来ず苦肉の策で流し込んだウイスキーが効いたのか、こうして三度目の海外生活をロンドンで送つてゐる。

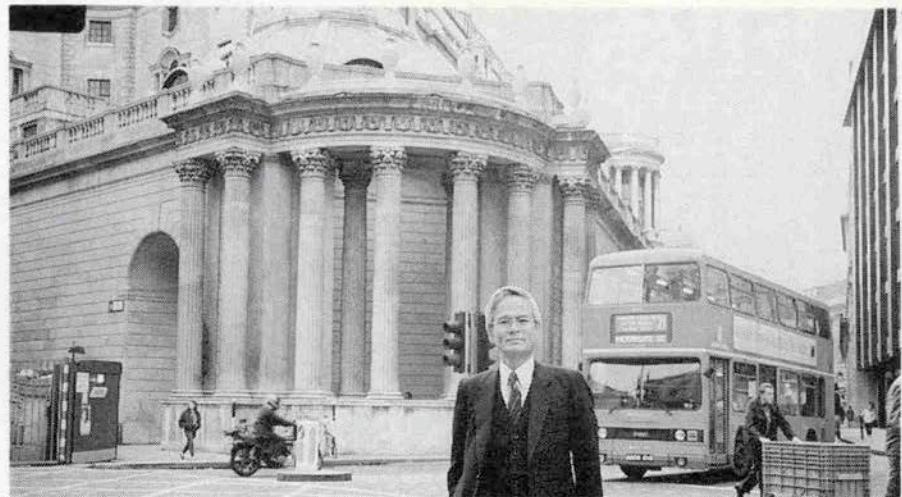
先日十一月五日に神栄石野証券ロンドン現地法人を開業したばかりである。一年余りの生活を通じてかつてこの国に対していくだいたいイメージと現実の間に様々なギャップを感じている。歴史を経た大きくて立派な石造りの建物、広大で美しい公園、それに世界中の文化遺産を集めた大英博物館など確かに見事である。しかし一方には、恐ろしく非効率な社会的習慣、無関心に路上に捨てられた大量のゴミ、汚れた地下鉄車内などといった現実もあるのである。一流百貨店でもそなうだが例え電気製品を買う時には注意しなければならない。買って帰つて箱を開けて見て初めてコンセントが付いてないのに気付くのである。ここではコンセントは元来別売りとなつていてし、あえてそれを教えてくれる様な店員さんもいないのである。インドネシアには未だ電気のない地域が圧倒的に多いが、口車に乗せられ買わされたテレビを為す技も無く部屋に飾つている人達がいるといった信じられない

そのせいか私の住む地区では屋外アンテナも設けられず日本のテレビ番組を見る事が出来ないのである。当国スポーツといえどサッカーも大変な人気だがラグビーには一位の座を譲る様である。地元の人たずねると品格の差が順位の差であるとのサッカーファンなら面白くないご意見であった。神戸での日本分校の開校等で神戸製鋼さんがいろいろと支援されているオックスフォード大学と、ケンブリッジ大学の伝統の試合を見せていただく機会に恵まれたが、鳴動する様な競技場の熱氣に門外漢の私でさえ不思議な酔いを感じ得なかつたのである。

乗物となると何といっても赤い二階建バス。レイランド社製で、最近日本にも輸入され浅草近辺の町おこしに一役買っていると聞く。魅力は何といっても二階席の視界の良さであろう。性善説なのかそれとも国民性のかか、下車時の切符チェックがないのである。従つて車掌が二階迄切符を売りに来てくれなければ何十ペニスかの恵みに欲することになる。

昼食時にはニューヨークでもそうであつたが軽く一ぱいやる習慣があつて、その時分になると古色蒼然とした街角のパブはサラリーマンで一杯になる。金曜日の星時ともなると心は既に週末休日入りした顔が入り切れず路上にあふれ出ている有様である。イスラム教のジャカルタや神戸などでは見掛けない光景である。ビールはギネスに代表されるコーケ色のビターが最高でこれは冷やさないで飲む。私などビールと言えばこれ一辺倒である。お化けの出るパブとか、かつてのシャーロックホームズ行きつけのパブとか色々あつて、人気のある「パブ巡りツアーワー」もあるらしい。

いろんな国で生活をしてみると、それぞれに愛着を感ずるのだが、通信や交通技術の発達と人々の交流に伴つて各国、各都市の同一化が進み個性や個有の文化が失われていく様に感じられ複雑な心境である。こうして原稿を書きながら遠く神戸の個性や文化について、あらためて考えて見るのである。



Bank of England の前にて。後方にロンドン名物の2階建てバスが行く。

日本ではまだ幸せかも知れないが。ここで仮りに欠陥成品比率が数パーセントあるとして、それが日本の会社なら全社を挙げて限りなくゼロにしようと努力する。この国ではその辺が非常に大らかであると聞くが国民性の違いによるものであろう。

ロンドンでは古くて使い勝手の悪いビルでも外観の維持は強制されていて、まるで市街そのものを博物館にし大英帝国を保存しようとしているように感じられる。

# 自己主張と“発言の文化”

神戸都市振興株総務課長

松田  
高明



神戸市の海外留学制度により二年間米国のロヂエスター大学で勉強する機会を得ました。この制度は、職員をビジネススクール（経営大学院）に派遣するものです。ロヂエスターはNY州の北東、オンタリオ湖に面した人口二十四万人の中都市でコダックの本社があります。

授業の最初にシラバスという紙が配られ、読んでおく  
頁、宿題、テストの日が書いてあり、そのスケジュール  
通り進んでいきます。日本の大学では最初に教科書のど  
の部分をやると言つても、休講があつたり、最後まで行  
くことは稀です。米国では、授業料を払っているのだから  
先生には教える責任があると考えています。だから休  
講はなく、最後の授業に学生が先生を評価する制度があ  
ります。考え方の良い教授は卒業式で表彰され、反対に  
極端に悪い人は大学を去らねばなりません。日本人学生  
にとってクラスでの発言は苦手ですが、語学力の問題よ  
りも小学校以来の教育方法の違いがあると思います。日  
本では正解がわかっていても指名されるまで発言せず、  
米国では発言 자체が大切であると教えているようです。  
日本にいる時は、レンタカーにしか乗ってなかつたの  
ですが、米国では車が必要品です。左ハンドルだと、ワ

高速道路を走っていると、野生動物の死骸の他に、ペーストしたタイヤの切れ端やマフラーが落ちています。これは米国の車検制度がおおらかで、まっすぐ進み、ライトやホーンが作動すればOKになるからでしょう。費用も十ドルぐらいで、近くのガレージに半日預ければ簡単にやつてくれます。特に私の住んでいた地域は冬の積雪が多く、除雪の後に凍結防止の塩を多量に撒くため、

イバーとワインカーレバーの位置が左右逆のため、曲ろうとしてワイパーを動かす間違いは長い間続きました。米国は車中心の社会で、歩行者用の信号は青からすぐに赤に変わってしまうため、少し広い道路だと走っても青の間に渡れません。日本なら老人・子供の弱者の立場から問題になりそうですが、そもそも歩いている人が少ないので、歩行者保護という観点はあまりないようです。また、ガソリン節約のため赤信号でも車は右折（日本では左折）ができ、走りやすくしています。日本では人の移動手段は公共交通機関特に鉄道で、駅を中心に住宅地が発達していくますが、米国には広大な土地があります。高速道路網と駐車スペースが自宅にも職場にも確保できるため、住宅は緑豊かな郊外に点々と広がっています。

車の下部がすぐにサビつきます。マフラーが落ちかけた車やタイヤのまわりのボディがサビてスダレのようになった車を見かけます。日本では車をみがき上げ、少しへこみでもしたら大騒ぎですが、米国では動けばいいと考えているようです。

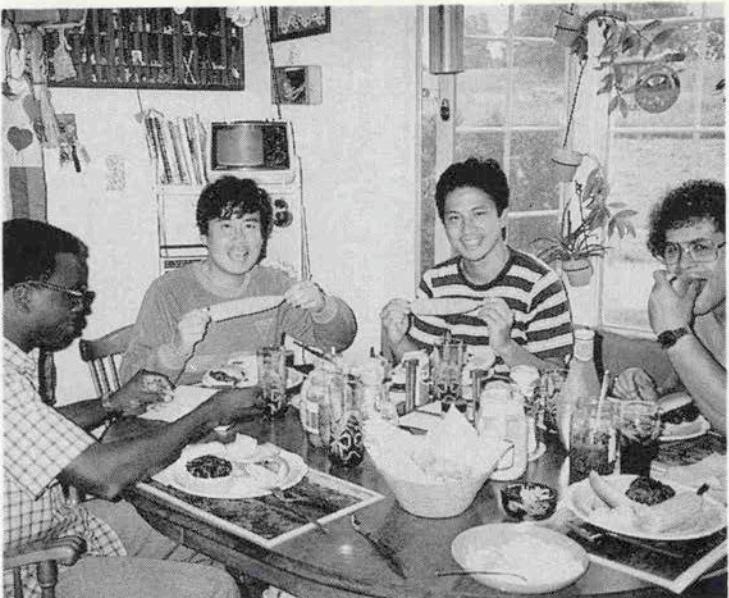
米国では驚くほど現金を持ち歩きません。二十ドル札より高額紙幣は流通していないのかと思う程です。いざ自分の銀行口座を開き、小切手を使ってみると小銭の必要もないし、郵便で送金する時にも便利なものです。IDカードを見る必要がありますが、紙きれに金額を書きサインをするだけで通用するのは不思議な気がします。

クレジットカードは、もとと信用力があり、電話でカードの番号と名前を言うだけで商品やチケットが送られ、

代金は銀行から引き落されます。サインもないのに他人に番号と名前をかたられたら、どうしてくれるのでしょうか。

少額の買物でもカードや小切手を使うので長い列ができますが、辛抱強く列を乱さず待っています。ある日、郵便局で小包を送ろうと並んでいた時、わずか五秒間横のポストに手紙を入れるため列を離れたところ、最後に戻って並び直すように言われました。日本人的合理性は受け入れられないようです。

米国で道を歩いているとよく道を尋ねられました。日本でなら明らかに外国人とわかる相手に道を聞くでしょうか。自己主張と発言の文化と、言葉に出さなくても相手の考えを推し量る文化の違いを感じました。



海外への留学の楽しみは、様々な国の人との出会いにある。

特集●海外から神戸へ

天津

Foreign Affairs'90

# 私の中国語単語帳

神戸市港湾局情報対策課長  
元・神戸天津経済貿易連絡事務所長

楠本 利夫



中国といえば、お堅い社会主义国。中国人は、みんなまじめで、人民服を着て、毛語録を学習し、町にはハエも蚊もない、というイメージをもつ日本人が案外多い。

このような一面もないとほいえないが、中国人といえどもやはり人の子、聖人君子ばかりではない。我々日本の庶民同様、カネもほしいければ恋もしたいのは当然のこと。以下は、三年間の天津滞在中に垣間見た、私の「中国語単語帳」から。

〔飯店・賓館〕  
ホテルのこと。香港では「大酒店」となどということになる。ちなみに、レストランは「餐厅」、「飯店」という。

中国のホテルは、外国人用と中国人用に分かれている。「飯店」、「賓館」、「大酒店」は、主として外国人用ホテルで、一般の中国人は、「旅館」、「旅社」、「招待所」といわれる宿を利用する。

天津には、外国人が居住できる住宅やアパートがないため、長期滞在の外国人も、外国人用ホテルに住むこと

を余儀なくされる。外国人用ホテルには、用がない中国人は、立ち入ることができない。

ここ天津にも一九七九年の対外開放以来、外国との合弁ホテルが相次いでオープン。合弁ホテルの施設は、國際水準で、神戸の一流ホテルとさほど変わらない。合弁方式は、中国と外国の折半出資が圧倒的に多い。中国側が土地を現物出資し、外国側が、資金、管理ノウハウを提供する、という仕組み。合弁期間（十～十五年）が終了すれば、すべて中国側の所有となる。外国の投資家は、限られた合弁期間中に、投資を回収しなくてはならないので、当然部屋代も國際水準とならざるを得ない。合弁ホテルの一泊百ドルという部屋代は、一般の中国人の月収の三～四倍に相当する。

天津には、まだオフィスビルがないため、外国企業の事務所は、ホテル客室を、オフィス代りに使用することになる。客室のベッドをとりはらい、机、いすなどのオフィス家具、ファックス、テレックス、直通電話を入れると、客室はオフィスに変身。もともとがホテルの客室だから、当然フロアやシャワーもついている。このフロアやシャワーは、そのオフィスに雇われている現地従業員が



85

子供達を運ぶ手づくりのハコ車。父親の手づくりなので、すべてデザインが異なる。



夜、路上で、街灯の光をたよりに中国将棋をする人。

長出張中には、なぜか、このオフィスを訪問する中国人が、がぜん、多くなる。どこからか、所長不在のニュースを聞きつけた中国人が、ふだん立ち入ることができない、外国人用ホテルの見物かたがた、オフィスのシャワーやフロを使用するため、訪問するわけである。一人で留守番をしている現地雇員は、このような来訪者の要求をむげに拒否すれば、あとで、どのようなしかえしをされるか心配なので、訪問を受け入れざるをえない。来訪者は、仕事の得意先、官公庁、警官など、いつもお世話になっている人だ。なかには、夫人やガールフレンド同伴でフロに入りに来る人もいる。こんなときは、現地雇員は、気をきかせて、二時間程度外出することもあるという。何事にも、コネがモノを言う中国では、これも、相手に対する貸しになる。



アモイから福州へ行く途中に立ちよったガソリンスタンド。個人経営の店だ。

天津のある日本企業事務所は、所長一人、現地雇員一人だけの事務所で、外国人用ホテルの客室だ。単身赴任の所長は、部屋に帰っても何もすることがないので、事務所で、夜遅くまで仕事をすることが多いが、こんなとき、現地雇員のシャワーの音を聞きながら残業をするのは、わびしいものだ。

所長は、中国国内の出張が多く、天津に不在がち。所長は、中国では、一般の庶民の家には、フロやシャワーの設備はないので、職場のシャワーを使用することになっているからだ。中国のオフィス、工場などには、かならず、従業員用シャワーが設置されている。退職者は、もとの勤め先で、子供は両親の勤め先で、それぞれシャワーを使用する。

# 国そのものが市民の「庭」

シンガポールそごう店

谷山 伸一



シンガポールへ在住して七ヶ月が過ぎ、何となく私自身、シンガポールの環境に慣れてきた今日この頃。シンガポールは緑豊かで、年中カラフルな花が咲き乱れる美しい国。

面積は日本の淡路島より、ひとまわり小さく、その中に、中国系、マレー系、インド系など人口二七〇万人の多民族国家である。産業においても機械化が進み、今やG N Pも東南アジアでは日本に次ぐ発展国である。治安もよく、外から見ればすべてがクリーンに見える。

さて、その中で若者達は日々どのように感じ、過しているのだろう。

今、シンガポールは経済が急成長しているために人手不足である。彼らの仕事に対する考え方と言えば、同じ会社に定着をする気はないようである。と言うのも、今の会社の条件よりもよい所が見つかれば、すぐ移ってしまふというのが現状である。日本的に言う、義理、人情ということがない。会社に対しては、全くないようで、その点は、はつきりしている。だから当然、仕事よりも自分の生活を優先しているみたいだ。彼らは与えられた仕事をよくする。だがそれ以上のことは望まない。非常に合

理的な考えを持っている。と言うのも彼ら自身、自分達の未来は明るいものだと信じている。まず、何と言つて日本のように住宅に對しての不安がない。それはH D B、住宅開発局の略であるが、国が、シンガポールの人達に大規模な団地を建設し、それを国民へ安く分譲、賃貸しているからである。今や国民の八十五%以上がこのH D Bに住んでいる。正にシンガポールは世界有数の団地国家である。団地と言つても日本のように狭くなく、ゆったりした三LDKが多い。また、その購入のためにC ·P ·F ·(中央積立基金)といふものがある。その内容は毎月税込み給料の二十三%を本人が、十六・五%を企業が毎月政府に払うというものである。これを積み立てて老後の年金にしたり、住居購入の頭金にしたりしている。彼らは、きっちりと管理された中で将来のための貯蓄を行っているのである。私の目から見れば、それの良し悪しにかかわらずシンガポールはいろいろな法律によつて、すべて支配されているように思える。例えば、ゴミを道路に捨てれば罰金だとか、飲食店の中ではすべて禁煙だとか…。また、国民に悪影響を及ぼすものは政府がすべて取り押さえたりする。日本人の感覺からすれば



シンガポールの人達が昼食を楽しむホッカセンター



今、若者に人気のあるラッフルズシティショッピングセンター

非常に窮屈な感じがしてならない。

さて、シンガポールの若者は余暇をどのように過しているのである。常夏の国シンガポールでは、一年中同じような気候で変化のない季節。私は、スタッフ休みの日や暇な時は何をしているのか尋ねてみると「我々はいつも十分にエンジョイしている」と答える。私が見ると、いつも同じ気候で変化がなく、国は狭いしどこに行つても変わり映えなく、二と三年も住むとすぐ飽きてしまうようを感じるが、彼らにとっては思わないみたいだ。彼らはこのように話してくれた。「我々は、国が狭いということは、国そのものが我々の庭みたいなものなんだ。そしてその中には我々を楽しませてくれる手段なるのがたくさんある。例えば、十五分も車で走れば砂浜が広がり、そこで泳いだり、サーフィンをしたり。たまにバーベキューなどもそこでやる。我々の国は都心部を除けば、まわりは緑に包まれた公園ばかりみたいなもの。そこでみんなで楽しく話したり……また映画館へもよく行くし、夜になればディスコで踊ったり、カラオケを歌いに行ったり……いろいろとみんな楽しんでいるよ」。

特に最近彼らはカラオケが大好きみたいだ。夜遅くまで、遊び歩いている姿をよく見るシンガポールの若者達。その姿は日本と全く変わらないのだが、なぜか私には違つて見える。それは、国家にとつてみんな良い子なのである。愛国心が非常に強いシンガポールの人達、それが私には、何かいかにも無理に美しく造られたようなものに感じられる。まるで美しい国シンガポールのようだ。

彼らはすべて自分達が、恵まれた環境にあると信じている。確かにそうなのかも知れないが、管理社会の中でコントロールされていると、自分達で切り開く力を失つて行くような気がする。国民の中に政府があるのか、政府の中に国民があるのか。

ただ一つ言えることは、彼らはシンガポールが大好きだということである。

Foreign Affairs'90

# マレーシア・ゴルフ事情

マレックス・インダストリーズ社長

宮本 熙干



常夏の国マレーシア。暑さの中を歩くのは億劫。通勤もドア・ツー・ドアのマイカー。朝夕は涼しいがジョギングは凡人にはどうも。となるとゴルフは健康維持の必需品となるのであります。かくして、週一～二回のゴルフは当地日本人駐在者の平均でしょうか。

当国の文化・社会習慣には英國植民地時代の名残りが今尚強く、例えば車は右ハンドル、ゴルフもその一つで、マナーもうるさいし、歴史も日本より古いようです。私の知る範囲でもタイピンという、昔スズで栄えた町には一〇五年も経つゴルフ場があります。(日本は確か六甲山の一九〇〇年が発祥)。またゴルフ場にはブール、テニス、スカッシュ、ビリヤード、高級レストラン等が併設され、メンバーカードは子供を含め全家族に渡されます。ハンドについても、クラブ毎に固有の審査方式を持ち、他のコースでのハンドは通用しません。もっともゲストに対しては紹介メンバーの責任にてOK。自身の体験ですが、赴任当初は前任者が業務引継のために残ってくれ、私は彼のゲストとして何回もメインコースを廻っていたのが、メンバーシップを得たその日からメインコースは駄目。専らニューコースと称する初心者にも開

放されている他の十八ホールで最低十枚のスコアカード提出→テスト資格の審査→テスト日の通知→コミッティメンバー同伴による九ホールテスト→審査委員会を経てハンドを貰うのに随分の日時を要しました。この間に日本から社長が来馬されローカルの客とゴルフを組む事態が生じ、クラブ宛特例申請→答はノー、という苦い思い出があります。

さてそれでも三年前はゴルフ天国でした。家からも、会社からも約十五分の距離だし、休日でも暑い盛りの時間帯はコースはガラ空き;この国では今でもそうですが、ブールでも昼間はガラ空き、夕方になると混みます……。ところがこの二年間、ゴルフ人口が急増、今や土・日曜に限ってですが、予約をとるのに四苦八苦の状態に陥ってしまいました。

景気回復による収入増に加え、このスポーツはマレ一人に適している→概してマレー人はおつとり型で氣位の高い気質、これを反映してプレイ態度は堂々としているし、周りを気にせず自分のゴルフに専心、私みたいに前が空いたの、後のフラトが詰つて来たのといった気遣いはあるでなしのマイペース型が多いようです。またマ

レ一人は全員イスラム教徒・禁酒民族で、元来娯楽に乏しかったのですが、この人達がひとたびゴルフの味を知るともう病みつき。以前は私が炎天下プレーするのを気に狂い視していた会社のローカル部課長連中が、今や私以上のゴルフキチに転じよとは!この他に日本人の奥様連も、ここではワークバー・ミトの制約で共稼ぎの場はなく、暇潰しにやつてみたゴルフが病みつきとなるケースが増えています。彼女等は暇に任せて熱中出来るので且那より腕が上る例も出始め、我々駐在員にしてみれば、天国から地獄への感のゴルフ事情です。

抜け目無くゴルフ場新設も急ピッチ。此所クアラルン

プール近郊・車で三十分ぐらいう範囲に、従来は五つぐらいのコースでしたが、この一年で二つが既に新規オープン、工事中が三つあります。数日前にオープンした尾崎将司監修の日系ゴルフ場は、何とナイター設備付です。今なお増え続けているゴルファー数。以前みたいに、気が向くまま好きな時に出来た時は戻つて来そうにもありません。

緑豊かな、食べ物のおいしい、そして今なお人情溢れるすてきなマレーシアへ、是非一度遊びにいらして下さい。但しゴルフスケジュールは、ウイークデイに。



(上) マレックス・インダストリーズの本社工場。同社は株ノザワ(本社・神戸市)の現地合弁会社。  
(下) 最近はグリーンでプレーするゴルファーの数も増えて来た。

平成3年

初詣

# KOBE 七福神

めぐり

平成三年の新春は  
KOBE七福神の  
七社寺から七つの  
福をお受けとり下さい

福の神・恵比須神

事代主神は、別名恵比寿、恵美主、福の神とも申しあげます。「於天事代に奉事代玉籤入彦歲之事代主神」の御典称の如く、天地の間全ての現象の先々迄見通される広大無辺の御神徳は、格別灼かであります。すべての事象を予知し、啓示される高き御神徳を仰ぎ、日々人生業の発展を願い、開運招福・災厄解除・商売繁昌の御加護をいただく人々は、福の神「長田さん」と称えて来ました。

銭磨き福禄寿尊

しあわせ・お金・長生き、私達の願いをズバリ名前で示す福の神が福禄寿尊です。もともと福も禄も寿も頭を使わなければ得られません。ボケてもいけません。「頭こそ肝心」と福禄寿尊の長い頭が示しています。その上、笑う門には福来るといつもニコやかです。だから、私達も笑いながらこの福禄寿尊の頭を撫でるとボケ封じになります。おまけに、この福禄寿尊の体でこすったお金を持つていると、不思議にお金が増えるといいわざがあるので、「銭磨きの福禄寿尊」と呼ばれるのです。

厄除開運・毘沙門天  
神戸開港一二〇年に船出した宝船にはいざれ劣らぬ福德圓満の七福神が眠りやかに同乗され、その中で一人毅然と立つのが毘沙門天。さながらこの船の舵取り船長格かと見受けられる。当然毘沙門天は厄除開運の守護神。私共人生航路の途上思わず災厄に舞われないと限りません。その時の頼みの守護神が毘沙門天。必ずや御加護がありましょう。因みに見聞されたと伝えられます。



○  
6550  
1  
1  
0001  
神戸市中央区多聞通3-1  
毘沙門天  
凌川神社



○  
6554  
1  
6  
8  
731-0416  
神戸市須磨区須磨寺町4  
大本山  
須磨寺



○  
6553  
1  
1  
691-0333  
神戸市長田区長田町3-1  
長田神社  
恵比須神

## KAKINUMA GALLERY



あじさい 松本志津子・作  
(トランスペレン) そめのはな・  
フラワーデザイナー

神戸の花あじさいが  
露に光っています。  
トランスペレンとは  
フランス語で透明な  
花。布で作った手染  
めの花をコーティン  
グ。光沢がありとて  
も軽く、インテリア  
からプローチまで使  
えます。未来カルチ  
ヤークラブで教室を  
開催しています。

(柿沼産婦人科に展示  
12/1 ~ 12/31)

## 芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

電 (0797) 31-1234 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

## MERRY X'MAS



ホワイト (¥ 1800より)

お父さん、ぼくにゲーム買ってヨ。  
わたしは、やっぱりケーキが、いい  
なア。

他にチョコレート (¥1800より)  
生クリーム (¥2500より) もあります

—北欧の銘菓—  
**ユーハム・コンフェクト**

# 市民の総力で 神戸をグルメ都市に

□座談会出席者（敬称略・順不同）

上島 達司（UCC上島珈琲㈱代表取締役社長・神戸グルメフェア実行委員会委員長）

松宮 隆男（モロゾフ㈱代表取締役社長）

岩田 弘三（㈱神戸ポートピアホテル代表取締役社長）

昨秋に続き、今年も10月12日から11月30日まで「グルメディアKOBE'90」の様々な催しが市内各所で行われました。前回においては「グルメシンボジウム宣言」が発表された神戸。そこで今回のキャンペーン座談会は、グルメ都市としての神戸の可能性を探るべく、ご出席いただいた皆様から自由なご意見を伺った。

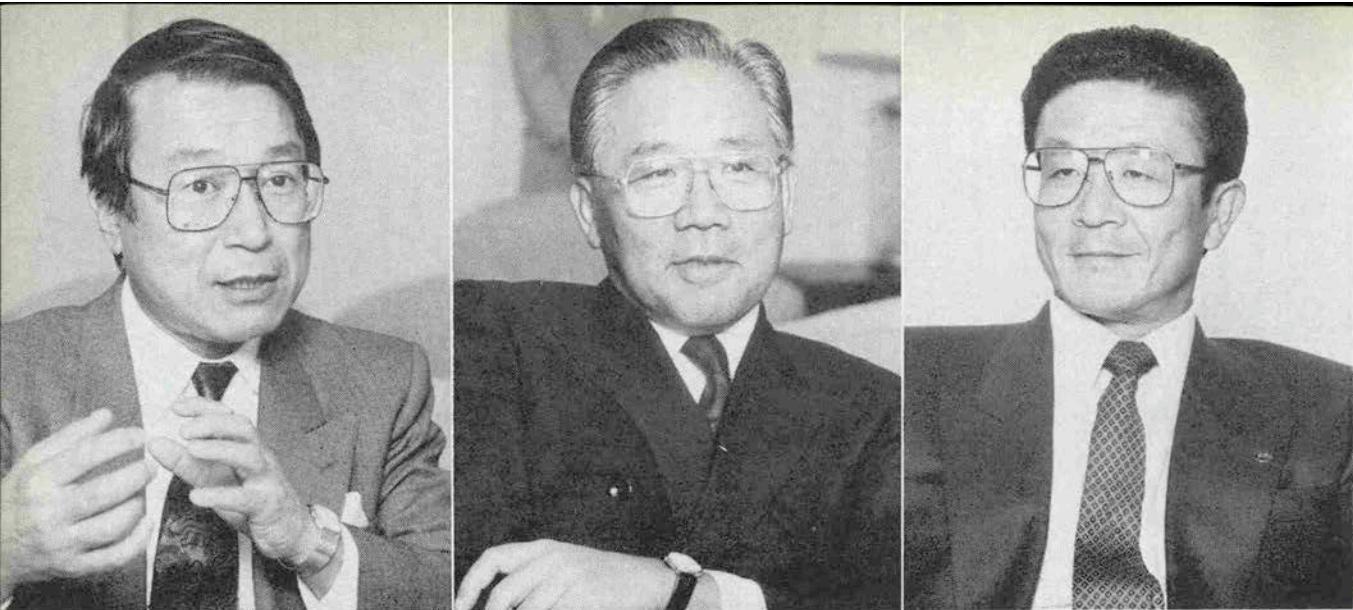
松宮 隆男さん

## ★神戸におけるレストランのグレードの向上を

上島 ファッション都市宣言以来、"衣・食・住"すべてをファッショントとして捉えようという情報発信が神戸で展開されてきたわけですが、ファッショントと言うと、どうしても"衣"だけのイメージでしか捉えられていないのが現実ですね。そんな中で、何とか「グルメ都市」をアピールしていくためには、理論ではなく感覚的に訴えかけていく必要があると思うんです。そういう意味で、昨年のワールドファッショントエアを契機に始まった「グルメディア神戸」というイベントも年を追つて数字を重ねていけたらと考えています。

やはり、まちづくりと合わせてグルメ都市を考えることによって、国際都市神戸のイメージも増幅させていくことができると思うんです。例えば、南京街の場合、地元の方々が街を盛り上げ、春節祭も神戸のイベントとして根付き今や、「神戸と中華街」というイメージが定着しましたね。大阪のアメリカ村やヨーロッパ村のように、神戸にも南京街以外に例えば、アジア街やイタリー街、インド街のようなまちがあればね。国際都市として、そんなまちづくりから手掛けるのも一つの方法だと思うんです。

松宮 新聞を見ていましたら、「日本のどこに住みたい



上島 達司さん

中内 力さん

岩田 弘三さん

か」というアンケートの調査結果が載っていたんです。とても興味深い結果でしてね。それによると、1位が静岡県、次いで北海道と兵庫県が並んで2位。3位には福岡県が入っているんですよ。そこで考えてみると、どの地域も自然に恵まれていて、気候も穏やか、食べ物もおいしいものが揃っていますね。最近、人々の生きがいが変化してきて、例えば、家族の団欒や親しい友人と余暇を過ごす時間が増加していますね。そんなくつろぎの空間を演出してくれるのが“食”であり、その空間こそ食文化の際たるもの。特に神戸は食文化を繰り広げる舞台として適しているし、また、いろいろな可能性を秘めたまちはないかと思います。ただ、グルメ都市神戸をどんな方法で訴えていくかが課題ですね。

ある学者が、こんな話をされます。「神戸には、まちの中で文化、文化とのを探しまわる悪い癖がある。神戸をどんなグルメシティにしたいのかを考えるのなら、まず神戸らしさとは何なのだろうかという文明論からスタートして、それから文化論に目を向けるべきではないか」と。つまり、グルメシティとして成り立っていく素材を持つているのに、それを発信していく実体に欠けていると言うんです。でも、まちの体质としては申し分ないとと思うんですけどね。

岩田 ちょうど海外の出張を終えて帰って来たばかりなのですが、いろいろな街を見ていましたが、やはり、おいしいものがある街は繁栄していると思うんです。また、旅人にとってもおいしいものがある街ではできるだけ滞在を延ばしたいと思いまますし、逆に、おいしくない街は早く仕事を済ませて通り過ぎようと思いますよね。だから、おいしいものが食べられる街は当然人気があるわけで、イタリアのローマやミラノ、フィレンツェあたりは、その代表的なまちだと思います。

先程、上島さんのお話の中にアジア街やインド街のことが出て来ましたが、アメリカだと、ベトナム戦争以後、韓国人の移民がとても増えて、至る所にコリアンタ

ウンがあるんです。勿論、そこには韓国料理のお店がたくさんあつてね。日本には以前から、横浜、神戸に中華街がありますが、もっと日本と距離が近くて国際的な関係をもつてゐる韓国街がない。コリアンタウンが神戸に出来ると南京街よりももっとおもしろい街になると思うんですけどね。北野町も確かに観光地ですが、それにかわる新しいものを今、神戸で育していくべきではないかと感じます。

中内 先日、ある雑誌に、東京在住の〇しに対して東京を除いた十万人以上の人口を抱えている百都市を対象にいろいろとイメージ調査をした結果が掲載されていたんですよ。その中に、東京以外で、おもしろそうで行ってみたい街のランキングがあるので、どこが1位だと思われますか。

松宮 神戸、札幌あたりですか。

中内 やはり、神戸がトップなんです。この結果は、私自身、ホテルをやつてしまつてもうなげますね。関東の〇しの方々が、土、日、日にかけて神戸に観光に来られる場合が多いんですね。ところが、グルメシティのイメージランディングでは京都がトップ。なんと、神戸は8位にとどまっています。さらに、こんな調査結果があります。京都、大阪、神戸ではそれぞれに22カ国の料理が楽しめる。次いで、名古屋が21カ国という具合です。"食"の種類に関する限りでは、意外と大都市の間では差が無いといふわけですね。そこで、神戸にグルメ都市として何が必要かを考えると、一つは、今以上に各国の料理を増やすべきかどうか。もう一つ考えてみるべきことは、フランスのミシュランガイドが三つ星や二つ星でレストランのランクを発表していますが、この基準は、そのレストランで食事をするために旅行を計画してもいい価値のあるレストランを三つ星とし、二つ星は、寄り道をしてでも行く価値のあるレストランということなんですね。神戸がグルメシティとして評価されるために、そんな三つ星級や二つ星級のレストランをどれだけつくりだせるか

ということです。神戸に、いくら各国の料理があると言つても他都市にもあるでしょう。ですから、トップレベルのグレードの高いレストランが、神戸にもっと必要ではないか、これからは品質の勝負になるのではないかと考えているんです。神戸は国際観光都市とコンベンション都市を目指しています。昨年の観光客数は二千三百万、コンベンション都市としても昨年の開催件数は東京に次いで第2位でした。この二つのポリシーとグルメティ戦略との関連も考えていく必要があると思います。

### ★ 東京ではプライベートで利用できるレストランが少ない

岩田 京阪神のどこででも22カ国の料理が揃うというこですが、それは、それぞれの都市に居住している、例えば、中国や韓国など現地出身の人がそのレストランを頻繁に利用するから出来てきたわけで、その人たちがいないとレストランもいい状態に保てないですね。と言うのは、日本人ばかりを相手に料理を作っていると、味も日本化してしまいます。そうなると、どこの国の料理だか分からなくなる。神戸から外国人が減少してきていると言われますが、如何に多国籍の外国人の方々のために神戸を住み良いまちにしていくかということも重要なかもしれないですね。

中内 そうですね。需要があつて、初めて供給が成り立つのですから。京阪神、いや近畿全域から食事に対する需要を神戸に吸引するパワーが必要でしょうね。そういうことによつて、全国から、或いは外国からも人が集まつてくるようになるのではないでしようか。

上島 お互いの相関関係ですね。

松宮 しかし、横浜の場合だと中華街の「聘珍樓」、京都なら「吉兆」と、すぐ店名が浮かぶものなんですが、神戸はピンとこないですね。

中内 素材面なら神戸ビーフのイメージが強力なんですね。

松宮 ステーキは断然ですね。どの店で食べてもおいしくさんあつてね。

いという評判を耳にしますよね。それから、神戸のパンの評価も高いようですね。「神戸に行くなら、パンを買ってきてよ」とよく頼まれるのですが、どの店のパンかと尋ねると「どこでもいい」と言うぐらいですから。

中内 新神戸駅で「フロインドリーブ」のフランスパンを売っていますよ。新幹線の駅の構内でフランスパンを売っているのは神戸ぐらいですね。

松宮 すごく有名な店は無くとも、神戸にはうまいものがあるというイメージを持たれているのでしょうか。

上島 逆に、神戸に住んでいるから客観的な神戸のイメージが見えてこないこともありますね。どの店がおいしいのかと尋ねられて、たくさんあるように思えて、も引きつけるものが無いように感じてしまつて。

岩田 神戸のレストランの資質として、プライベートで行ける範囲のお店が多いと思うんです。社用族は別として、東京でプライベートに利用できるお店は少ないですよ。

中内 断然、東京より神戸の方が安いですね。だから、神戸がOLの人気を擱んでいるんでしょうね。

### ★レストランの雰囲気づくりが大切

岩田

ミラノの人、「どうして日本人は食事に出かけるというの仕事着で行くのか」とよく聞かれます。あちらでは食事に出かける時、例えば、オフィシャルなパーティならフォーマルなドレスで着飾るし、気軽に友達同士で出かけるならカジュアルな服装だし。グルメをファッショント捉えた場合に、世界と日本とのライフスタイルの違いを痛感しますね。まだまだ中身が伴なっていない。

だから、グルメシティとして本来



本来あるべきグルメの姿を情報発信できれば

あるべきグルメの姿を情報発信するのが神戸の役割だと思いますね。

松宮 そうですよ。タキシードを着ていかない入りにくいような高級レストランも必要ですよね。

それにしても、近頃、奥様方がお昼にホテルで三、四千円ぐらいのランチを食べていらっしゃる光景をよく見ますね。私はとてもいい傾向だと思うんです。いい雰囲気を味わえる上に、料理の素材もしっかりといてのんびりしてますよ。いわゆるニューリツチ層にはうけますよね。

中内 おっしゃる通りですね。

お客様にホテルを上手に利用していただくためにも、服装も、又は子供を連れて行くかどうかということも判断してレストランを選んでいただくといふと思います。来られるお客様がレストランの雰囲気をつくりあげていく面がありますからね。ですから、ヨーロッパでは、高級なフレンチレストランに子供を連れて行かないことは常識ですし、ジーンズ姿のお客様が一人でもいらっしゃるとムードが壊れてしまいます。

岩田 そうですね。夢が無くなってしまいますものね。

上島 以前、パリに出かけた時に、男ばかり15人位の団体でレストランへ食事に行ったことがあるんですよ。そうすると、店内でも壁に接近した一番狭い場所へ押し込められてしまいましてね。今、考えてみると当り前のことなんですよ。

中内 お客様を見た瞬間に、どの席へ着いていたいたらレストランの雰囲気が盛り上がるかを判断するんです。パリの三つ星級のレストランなら、日本人のお客様は

店全体の二、三割ぐらいしかありませんね。確かに、日本人側から考へても、折角、期待して三つ星級のレストランに行つたのに客が日本人ばかりでは幻滅してしまいますから。

岩田 なかなか心憎い配慮ですね。

松宮 望ましいのは、グルメツアーや参加する時は夫婦や恋人同士など、女性同伴で行きたいのですね。

上島 女性が同席すると雰囲気も和みますね。

松宮 ヨーロッパの人々は、夜を楽しむなら劇場へ行くか、レストランに行く習慣がある。同じウェイトなんですね。みんなドレスアップする。しかし、日本人はまだ食事ですら楽しむというには、残念ながら程遠い感じですね。

岩田 日頃から、生活の中でパーティを催す機会がもつと増加すればね。女性を混じえたファミリーなパーティ

松宮 若い世代では広がりつつありますね。クリスマスパーティ等が代表的で。

上島 パーティの習慣が日本人にはまだ浸透していない。それと、立食式のパーティではなく着席した状態のパーティの方がムードがあると思いますね。

### ★グルメ都市を育てるのは神戸市民

中内 神戸の歴史は、京都や大阪と較べると浅いです

ね。開港以来ですから、まだ百二十年。その神戸がグルメ都市として他に勝負を挑んでいくのなら、本物で勝負するしかないと思います。フランス、或いは香港などから本場のノウハウ、そして人材を輸入するしかありません。それでないと、なかなか対抗していけないと思いましたね。それともう一つは、地元での人材の育成でしょうね。その点では、六甲アイランドに日本で初めてのホテルレストラン専門学校が開校するということは、神戸の将来に大きな効果がありますよ。

松宮 そうですね。専門分野のレベルの向上につながり

ますね。それと、単に技だけでなく、「食」は生活に根差したものですから、まちづくりと同時に考えないと。現代は車社会を中心としたまちづくりばかり考えられがちですが、もっと人の住むまち、人の歩けるまちと車とのアクセスをしっかりと考えたまちづくりを望みますね。

上島 それに加えて、「食」に対する需要と供給の関係を市民も意識するようにならないとね。コンベンションも必要だし、その受け皿も必要ですが、お客様が店を育て、また店がお客様を育てるように、両者がお互いを高め、育てていくものだと思います。他にも、複合的な問題はありますが、一つ一つ積み上げていってグルメ都市の推進を継続していくかなければなりませんね。

中内 グルメ都市を育てていくのは市民ですね。神戸に行けば楽しく気持ちよく食事ができると思っていただけた環境づくりが大切で、そのためにも、市民のみなさんによるマナーをよく理解してもらうことがグルメ都市神戸のイメージアップに繋がると思います。おいしいものを食べるだけがグルメではありませんからね。

岩田 そんなグルメ市民に対して表彰があつてもいいですね。

松宮 なるほど、「グルメ市民懸賞」ね。ナイフやフォークに関するマナーではなく、楽しく食事ができる雰囲

気をつくりだせる人を対象にしますね。それとは別に、レストランでウェイターや調理をされている方々に対しては「ベストホスピタリティ賞」をつくったりしてね。

上島 それとは別に、レストランでウェイターや調理をされている方々に対しては「ベストホスピタリティ賞」は、そんな演出も必要ですね。食べものだけではなく、それを囲む雰囲気など全てが「食」に繋がっていくのですから、ある意味で「食」は芸術と言えますね。

(神戸ポートピアホテル・サビアラウンジにて収録)

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎俊作

神戸市中央区港島中町 6-3-2

T E L (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上勉

神戸市中央区港島中町 6-5-1

T E L (078) 303-3311



キャンペーン「神戸の観光と魅力を探る」の  
企画は以上各社の提供によるものです。

## —ある手紙—

"S <"

新らしい世界の住み心地は如何？随分遠い所へ行つてしまつて、今頃どうしてゐるのかナと思つたりしています。

この処、二度ばかり伊古奈・喫茶美術館に行ってきました。  
東大阪の、下小坂という、神戸からだとちよつとした小旅行気分。

素晴らしい！

須田尙太の世界です。

書と、絵と、一杯のコーヒー、住みついてしまいたい位の居心地のよさ！ 絵の一かけらでもいいから持つて帰りたくなってしまう。 夢中になってしましました。

が必要です」という須田画伯の思いがそのまま具現化した様な——。

あなたもぜひ行って、坐って、見て、そして美味しいコーヒーを味わって下さい。都会の中には、周囲の喧噪とまるで無縁の、ひつそり優雅であたたかく――。神戸にそのまま持つて帰りたい！と一人ワメイております。



# NEUE MODE MÄRCHEN

絵と文  
スチリスト

竹中紀子



